

目指す学校像	自ら学び心豊かでたくましい児童の育成 ～ 変化する社会を、笑顔で生きていくために～
--------	-------------------------------------------

重点目標	1 【学力向上】	ICTや地域の教育力の効果的な活用、問題解決的な学習の充実
	2 【安心安全】	環境の整備、緊急時対応の徹底、食に関する指導の充実
	3 【開かれた学校】	積極的な情報公開
	4 【教員の資質向上】	今日的課題に関する研修の実施
	5 【心の教育】	人権意識の育成、教育相談体制の充実、積極的な生徒指導の推進

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価					学校運営協議会による評価		
年度目標				年度評価			実施日 令和 年 月 日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<b>「学力向上」</b> ○ タブレットパソコンの取扱いについて、順応している。 ○ 多くの児童は、基礎学力が概ね身に付いている。 ○ 問題解決的な学習が身に付いている。 ・ 課題設定、個別学習、全体学習(アクティブラーニング、ICTの活用)、まとめといった学習過程が定着している。 ○ 多くの児童が、学習規律を身に付いている。	教育環境の効果的な活用	① ICT機器を活用した授業改革の推進 ・ 自身の学習状況に合わせてドリルパーク、スタディサプリを活用し、基本的な計算等の反復習熟に取り組みさせる。 ・ 自分の考えを相手に伝えるための基本的スキルを指導する。 ② 地域を生かす教育課程の工夫 ・ 公共施設の見学、地域の方を講師とする授業を計画的に実施する。	① ICT機器を活用して、習熟に応じた個別の学習を全学級週1時間以上実施できたか。 ① ICT機器を使って意見交換をする授業を2年生以上の学級で単元に1時間実施できたか。 ② 地域の方を招いた授業、地域を訪ねる授業を年間5回実施したか。(生活科、社会科、クラブ活動)。			
		問題解決的な学習過程の充実	① 「問題解決的な学習」の充実 ・ 問題解決的な学習の重要な要素である「問題設定」について工夫をする。 ② 集団学習の深化 ・ 個別に解決した結果を集団でまとめる活動に関する時間を確保する。	① 「問題設定」を工夫した授業が、単元の7割で行われているか。 ② 「集団でまとめ活動」の時間を設定した授業が、単元の5割以上で行われているか。			
2	<b>「安心安全」</b> ○ 保護者や地域の方々の見守りによって、安全に登下校することができている。 ○ 自助の姿勢が身に付いているが、繰り返し指導していく必要がある。 ○ 教職員は、危機管理に関する情報共有や研修会を行っている。(傷病、事故)	防犯、交通安全、生活安全、防災の充実	① 自分の身が守れる力の育成 ・ 体育、委員会、下校指導、行事で「自助」について全学級で継続指導をする。 ② 安全安心な生活環境の整備 ・ 整理整頓された教室を保持する。	① 「自助」の意味が分かる児童が、全児童の7割以上いるか。 ② 教室内におけるけがの件数が昨年度を下回っているか。			
		危機管理の徹底	○ 緊急時対応の継続的な研究 ・ 学校行事では、ASUKAモデルを基に緊急時対応のシミュレーションを行う。	○ 運動にかかわる学校行事について、緊急時対応のシミュレーションをすべてで行っているか。			
		健康教育の充実	○ 学校食育の推進 ・ 食への関心を高めるために学校給食を教材として日々指導を重ねる。	○ 給食の時間を楽しみにしている児童が全体の7割以上いるか。			
3	<b>「開かれた学校」</b> ○ 情報は発信しているが、適切な時に、適切な量であるとはいえない。	情報の積極的開示	① 文書、メールによる積極的な情報発信 ・ 学校生活に関する情報を、文書、メールでお知らせする。 ② ホームページの定期的な更新	① 昨年度を上回る文書、メールを发出しているか。 ② 2週に1度で更新しているか。			
4	<b>「教員の資質向上」</b> ○ 継続的に研修をしてきた。引き続き研修が必要である。 ○ 教科等以外の研修が必要である。	教職員研修の充実	① 算数科を中心とする校内研修の実施 ・ 講師を招いて、研究授業と研究協議会を実施する。 ② 児童理解に関する研修会の実施 ・ 「自己有用感」や、本校児童の状況に関する研修を実施する。	① 算数科研修会(研究授業、研究協議会)を年間3回実施しているか。 ② 児童理解に関する研修会を年間5回実施しているか。			
5	<b>「心の教育」</b> ○ いじめについて、未然防止、早期発見、早期対応が必要である。 ○ 特別支援教育について、教職員の研修が必要である。 ○ 新型コロナの影響で、学校と保護者が接する機会が少なくなった。 ○ 一教員ではなく、組織で対応が求められている。 ○ 進んであいさつができるのは、全児童ではない。	高い人権意識を持ち合わせた人間の育成	① いじめや差別に関する危機意識の高揚 ・ 事案について迅速かつ組織的に対応する。 ② 特別支援教育の充実 ・ 教員が、ひまわり学級の参観を通して、その状況について理解を図る。	① いじめ案を認知した日に、対応が行われているかどうか。 ② 特別支援学級を授業参観する教員が8割いるか。			
		教育相談体制の充実	① 面談の実施 ・ 児童や保護者と面談を通して、成長の様子や困り事について共有する。必要に応じて、改善の提案を行う。 ② カンファレンス会議の開催、情報の共有	① 全ての児童や保護者との面談が行われているか。 ① 配慮を要する兆候が見られた時に面談が行われているか。 ② 組織的に対応すべき事案について教職員が認知しているか。			
		積極的な生徒指導の推進	○ あいさつ、返事、話の聞き方の徹底 ・ 「おはようございます」、「はい」、体の向きについて継続して指導を行う。	○ あいさつができていると認識している児童が7割いるか。			